

# グローバル理工人国内研修 2023

## 最終報告書

## 目次

1	オンライン研究プログラムの目的.....	3
2	研修日程.....	3
3	オンライン研修.....	4
3.1	キャリアワークショップ.....	4
3.2	キャリアトーク 1: 2/21.....	7
3.3	キャリアトーク 2: 2/27.....	10
3.4	キャリアトーク 3 2/28.....	12
3.5	留学トーク: 3/7.....	13
3.6	アメリカ.....	14
3.7	スリランカ.....	19
3.8	シンガポール.....	22
4	参考資料.....	24

## 1 オンライン研究プログラムの目的

グローバル化は、情報、物流、移動等の面で人々の生活をより効率的にした一方、気候変動や格差等世界規模の課題も顕著化させた。また 2020 年初頭の世界に大きな影響を及ぼした COVID-19 の原因及び対応は、グローバル化の功罪と恩恵に大きく関連付けられるが、特にグローバル化のキーワードの一つのモビリティに大きな影響を与えた。そして移動を前提とした国際教育は「場所を選ばない」教育へ形を変えるに至った。本研修は、留学や将来の国際的な活動を含めた将来計画作成を軸とし、自身のキャリア・ライフプランを具体化する為に実施された。以下に本研修の 3 つのねらいを示す。

- (1) 対象国(アメリカ、スリランカ、シンガポール)の高等教育とその後のキャリア形成についての理解を深める。
- (2) 「留学」について、デジタルとリアルの相違点、習得できることの共通点と相違点を見出し、そのメリット・デメリットを考察する。
- (3) デジタル化の加速、移動を伴わない繋がりや、異業種/異文化の協働によるイノベーションの必要性が示唆されている世界で、将来のグローバルな活躍に必要なスキル等を考え、今後のキャリアプランの具体化の参考とする。

## 2 研修日程

以下の表に本研修の日程を示す。全行程オンライン上で実施された。

**Table 3.1.1 研修日程**

日時	日本時間	対象国	内容
2/13(月)	9:00-11:00		オリエンテーション
	13:30-15:30		キャリアワークショップ前編
2/14(火)	10:00-12:00	US	ジョージア工科大学ジョイントセッション
	13:30-15:30		データ比較
2/20(月)	10:00-12:00		参加国紹介
	13:30-16:00	Sri Lanka	スリランカ学生交流
2/21(火)	10:00-12:00		キャリアトーク 1
	13:30-16:00	Sri Lanka	スリランカ学生交流
2/22(水)	14:00-16:00	Singapore	南洋理工大学生交流
2/27(月)	10:00-12:00	US/Singapore	留学トーク
	13:00-16:00		企業訪問 & キャリアトーク 2
2/28(火)	10:00-12:00	US	ジョージア工科大学ジョイントセッション
	14:00-16:00		キャリアトーク 3
3/1(水)	13:30-15:30		キャリアワークショップ後編
3/8(水)	9:00-11:00		成果発表会

### 3 オンライン研修

#### 3.1 キャリアワークショップ

##### 1) 前編：2/13(月)

前編のキャリアワークショップでは、キャリアセミナー、基調講演、グループワークの3つが行われた。

##### ①キャリアセミナー

講師：守島利子先生（キャリアアドバイザー）・伊東幸子先生（未来人材育成部門長）

これから海外の学生との交流を行いキャリアについて勘案していくにあたって、そもそもキャリアとは何かについてお話をされた。キャリアとは講義の意味では生涯・個人の人生の生き方そのものとその表現のしかたであり、積み重ねることによって前の経験がどのように活用できるのかを考えることが重要であるとのことであった。それに付随してキャリアパスとは「働くことを中心において、どのような形で経験を積んでいくか、そしてどのような生き方をしていくか」であるとも仰っていた。その上で、これからの人生でどんな人生を送っていくのかを設計し、具体的な手段や選択に落とし込むことが進路の決定だと知ることが出来た。また、具体的に東工大の具体的な教育システムを使って先輩のキャリアパスの実例に関してお話していただいた。多くの人は修士課程修了後に企業に就職するが、10年経つと海外にご縁が出てくる場合が多いとのことであった。このような海外との関係を持つ事は一般的に大変な経験だが、これは学ぶところが多く、成長できるということであるとも仰っていた。これにより、今回の研修は大変であるかもしれないが、私たちの成長に大きく関わっていくだろうという期待を持つことが出来た。

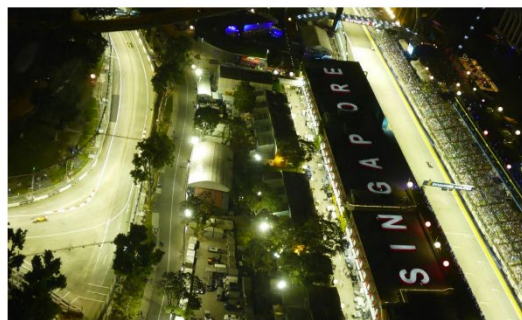
##### ②基調講演

講師：井上あきの先生（蔵前工業会）

東工大を卒業した後に就職したところ、日本のモバイル技術について海外と交渉したり、海外の研究所のトップを務めたりするを経験された井上様のお話を聴講した。海外との交渉の際は、日頃からディベートに慣れている主張が強い人たちに対してどのように交渉をしていくのかを模索したという。また、50歳を過ぎて初めての海外赴任で何度もカルチャーショックを受けたと仰っていた。しかし、昨今では30代でも海外経験は遅いと言われるが、いくつになってもそのような経験は著しく成長させてくれるものであるともお話しされた。コロナによって海外経験が制限されてしまった私たちにとって、このお話はこれからの生活に対して光明を見出すものとなった。並びに、グローバルで働きたいと思っている学生は博士号をとると即戦力とみなされ重宝されると仰っていた。これは現在の日本企業の博士号取得者に対しての待遇を鑑みて修士修了で就職を考えていた私たちにとって非常に勇気を貰えるものとなった。また、人前で質問するのは躊躇される場面が多いが、どの

ような質問であっても聴者の理解を底上げしたり話を広げたりするのに役立つため、相互理解の為に積極的に質問をするべきだと仰っていた。このことは今回の研修のみならず、他者とのコミュニケーションに於いて大きな指針を指し示すものとなった。

テーマ: 人生100年時代をどう生きるか、留学、就職、国際的なキャリア形成の視点から考える



2023/02/13 グローバル理工人セミナー  
「私が海外経験から学んだこと」  
井上あきの

Figure 3.1.1 基調講演講義スライド

③グループワーク

事前に用意されていた過去・現在・未来のキャリアに関する 10questions に回答したうえで今回のグループワークに参加した。4人程度のグループに分かれて共有することとなったが、たった4人でもこれまでの人生やこれからのキャリアについての考えが大きく異なっていた。大学に入学してから自分の進路を決めた人もいれば、高校の時から興味のある分野を見つけ、それを遂行するために大学に入学した人もいた。しかし、それらに共通する点は少なからず将来的に海外で生活することを視野に入れているものであった。そのため、他者のキャリアのみならず、改めて自分の研修への参加目的を確認する場ともなった。

2) 後編: 3/1(水)

後編のキャリアワークショップでは、基調講演とグループワークの二つが行われた。

①基調講演

講師: 小泉勇人先生

学生時代から劇作家のシェイクスピアについて研究をし、カナダやイギリスへ留学をして海外との交流を経験された小泉様のお話を伺った。これまで英語を教える際に流暢さに重点を置いて教鞭をとったという。そこで、『Speak your “poor” English』、『Enjoy making

mistakes』、『Make questions/Be a good listener』の三点をポイントとして挙げられた。そのポイントを的確に捉えた短期で流暢に話せる訓練方法として、便利な表現を学ぶという事であった。他者の話を聞き、自分の意見を述べたり質問をしたりすることは立派なコミュニケーションである。これに対して英語には多くの表現があるものの、それを知らないために不自然な英語となってしまうとのことだった。また、これらの知識があっても咄嗟に会話の中で使えないために流暢さが損なわれる場合が多いとも仰っていた。それを克服するための長期的で効果的な訓練方法はオーバーラッピングとシャドウイングを繰り返し行う事である。これらのことの目的は英語に慣れることであり、これを一日30分行うだけでも数年で英語が流暢に話せるという。また、これは英語の癖を捉えることができ、好きな洋楽を完璧になるまで歌うのでも楽しみながら十分効果を期待できるという。これらのお話は多くの参加者が悩んだ実践的な英語の学びへの一つの指針となった。並びに、研修の最後に聞くお話として、これからの学生生活や人生における言語学習への活力となるような機会となり、海外の人々との会話への大きな希望になったと考えられる。

## ②グループワーク

グループワークでは最後の授業ということで、最初に行った10 questionsを元に今回の研修での達成度とそれによる新たな目標を確認した。ここではKPT法と呼ばれる「Keep(継続すべきこと)」「Problem(問題だと思ふこと)」「Try(改善・試行していくこと)」の3象限で整理する方法を用いて評価した。共有の仕方は4人ほどの少人数で行った後、最終的に全体で共有するという形で行われた。共通点としては、そもそも日本語での質問がなかなか思いつかないということから相手にも分かる雑談内容が提供できないなど様々あった。そのなかでも最も挙げられていたのは英語力向上のための勉強だった。研修内ではおおまかにコミュニケーションをとることは出来たものの、簡潔に伝えられず困ったという声が多かった。このような困難をこれからの学生生活へどのように有効活用するかを思案することは、英語学習のみならず自分の関心分野への更なる学習意欲を掻き立てた。

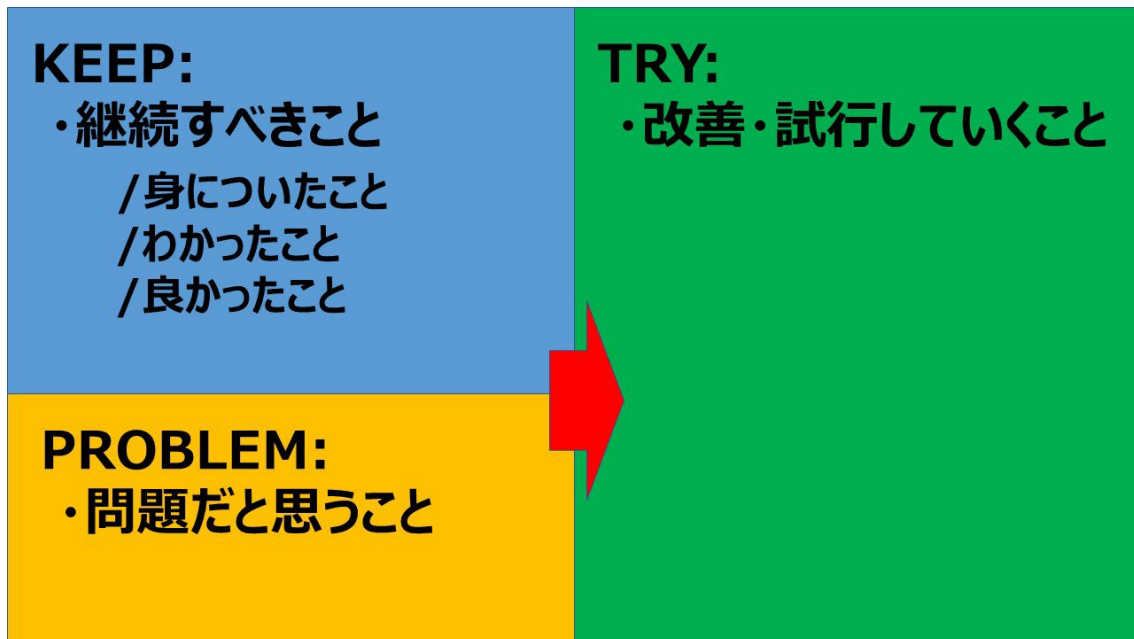


Figure 3.1.2 KPT 法についてのスライド

### 3.2 キャリアトーク 1: 2/21

#### 1) 大橋匠氏

##### a. 概要

大橋匠氏は長野の高専から東京工業大学に編入し、学生時代にバンラディッシュに留学をした。その体験を経て教育についての活動を始め社会科学系に移動した。その後環境・社会理工学院の助教となり、スタンフォード大学で客員助教となり、現在は環境・社会理工学院の准教授であり、育休を取得中である。その中で得られた体験から留学の本当の価値についてお話ししていただきました。

##### b. キャリア形成のための学生時代の選択肢

キャリア形成のための留学はあるが、課外活動やボランティア、起業やインターンシップなど他の選択肢であったとしてもキャリア形成をすることは可能である。その上で本当に留学は必要なのかということをお初めに問いかけられた。この研修の初めにとったアンケートでは多くの人は留学は語学力向上のためにしたいと言っていた。しかし、語学力だけでいいのであったら上昇はするもののオンライン英会話やシャドーイングで十分である。また、異文化交流について述べた人もいたが、大事ではあるけれども一度の留学で理解しきれものではない。そこで、留学において最も価値のあるものは圧倒的なマイノリティ体験ができることであり、アイデンティティの崩壊とその再構築をするきっかけとなることである。

##### b. 留学体験

大橋匠氏は学生時代にバングラディッシュに行きインターン先のチッタゴン上下水道公社で88日間、約3ヶ月の留学体験をした。ちょうど留学をしていたタイミングが社会機能が停止するハルタル（操業ストライキ）が起こって、ホテルの近くで爆撃も起こっていた。バングラディッシュでは水道の普及率が30%ほどで田舎では井戸で水を汲んでいるような生活であった。その留学体験の中で特に記憶に残っていた自転車修理のおじさんについて話していただいた。自転車修理のおじさんはバイクや自転車を治して生計を立てている方であった。その人と比べて自分にはこの場所では生計を立てることもできないということに気づいたという。それによって、今まで東工大生として持っていた自信を失った。そこで、留学を終えた後、教育でバングラディッシュに恩返しをするために教育活動を本格的に始めて社会科学系へと移動した。



Figure 3.2.1 バングラディッシュの自転車おじさん（講義スライドより）

もう一つの留学体験として、2019年から2021年にスタンフォード大学客室助教をされていた。ここでもシリコンバレーのエコシステムを体感し、周りの凄さに圧倒され、自分の長所が長所ではなくなったような感覚になり自己紹介ができないというような挫折を味わった。

留学から帰ってきた後、アイデンティティが崩壊した状態で考えても仕方がないと滞在中に学んだ「デザイン研究法」「質的研究法」を活かすようになった。その結果、超学際、デザイン研究の領域で、成果が出始めた。それによって、自信を取り戻し、アイデンティティを再構築することができた。

留学を経て、アイデンティティが崩壊し、一旦絶望したものの再構築を経て、より強くなった。留学は、自分のアイデンティティについての葛藤を余儀なくさせるが、留学することによって「私は何者なのか？」を探し自分のアイデンティティをより強くさせることができる。

## 2) 菅野流飛氏

### a. 概要

人生のポリシーとしてワクワクしないと、生きている意味がないということを挙げていて、菅野流飛氏の豊富なキャリア経験を通して不安定な時代を生きる上で求められることに



いて貴重なお話を伺えた。現在、メルカリ創始者の山田進太郎氏の財団の幹部であり、お金を稼ぐことが目的ではなく社会に貢献するためにお金を使うことを目的として、STEM 分野で活躍する女性を増やすための活動を行なっている。

#### b. カリフォルニアでの体験

菅野流飛氏は先々週にカリフォルニアに行っていた体験を元にリーダーシップについてのお話をしてくださった。カリフォルニアでは市民交流と観光を楽しみ、その中でモーニングが 3000 円もしたといった物価の高さや、教育に対する情熱という名の危機感や小学生の小学生とは思えない堂々としたプレゼンテーションやオーケストラでの指揮や演奏といった、幼いうちからふるいにかけている様子を見た。カリフォルニアでは幼いうちからリーダーシップを発揮して積極的に活動することが求められており、そのためには高額な投資が必要であることから貧富の差が生まれてしまう。そのような環境を見て、他の人との格差が生まれてしまうのは何が悪いのだろうかということについて考えさせられた。

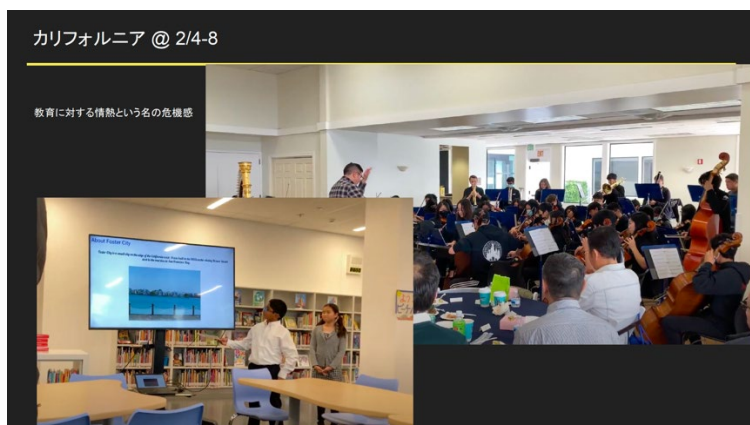


Figure 3.2.2 カリフォルニアでの教育（講義スライドより）

#### c. 不安定な時代を生きるには

成長やスキルの拡大というものを以下の円の画像で説明してくださった。その中で、まず最も大切なことが私自信を確立させることである。私が確立していないと何もできない。そのため、第一に自分自身の確立に注力することが大切である。その次は自分の身近な家族や友達を守ること、そして社会を変えることといったように自分の周りから確立していくことが大切である。また、より輪を大きく広げるためには異なる人と関わる大切である。異なる人と働くことで一人での限界を超えることができるだけでなく、発想やスキルを広げることができる。



Figure 3.2.3 菅野氏の考える個人と社会の接続イメージ（講義スライド）

### 3.3 キャリアトーク 2: 2/27

#### 1) 瀬川緑氏

##### ①プロフィール

2013年に東京工業大学 大学院理工学研究科有機・高分子物質専攻 博士後期課程を修了した後、Procter & Gamble (P&G)に入社。シンガポールで勤務後、2019年に日本に駐在員として派遣。2023年の1月からシンガポールに戻り、現在はSK-IIのプロダクトデザインを行っている。

##### ②企業訪問

###### a. P&G とはどのような会社か

P&Gは洗剤、ヘアケア製品、化粧品、小型家電、ベビー用紙おむつなどで様々なブランドを出している企業であり、一日に世界人口の約半分がP&Gの商品に触れているほどに幅広く展開している。消費者の満たされていないニーズを探り、人々の暮らしを変える画期的な製品を作ることを目指している。

###### b. R&D とは何をする部署か

R&DとはResearch & Developmentの略であり、製品をデザインして作るという仕事をする部署である。消費者に広く受け入れられる商品を作るためには、まず消費者が現在の生活に対して不満に思っていること(アンメットニーズ)を探り、それに対して企業が持っている技術を用いて何ができるのかを考えることが大事である。R&Dでは消費者の中でターゲットを絞り、その人たちの言葉を数値化して目標を設定し、どのような製品がアンメットニーズを解決するかを消費者目線で考えている。

###### c. ケーススタディ

グループワークでは、ある洗剤を船で輸出する際に問題が発生したとして、与えられた条件から考えられる原因を挙げ、どのような実験をすればそれらの原因が正しいことを実証できるかを考えるという課題に取り組んだ。船内の環境や洗剤の容器、箱の積み方など多くの視点から仮説を立て、それを実証するために実験でどのような環境を作ればよいかとい

う細かい部分まで想像する必要があり、班によって様々な意見が出た。企業で実際にこのような課題に取り組むときには実験をする前に念入りに調査をすることや、コストの問題も考える必要があることなどを学んだ。

## 2) 竹之下真央子氏

### ①プロフィール

2021年に東京工業大学 生命理工学院 修士号（理学）取得、グローバル理工人育成コース上級修了。同年にP&G株式会社 SK-II生産統括部に就職。

留学経験は、2016年に米国大学(Stanford、MIT、Harvard)・企業(Google、SAP、NASA)見学、iGEM 合成生物学国際大会出場、2017年にKAISTにて研究留学、2018年にモスクワ大学にて研究発表・学生交流プログラム参加、2019~2020年にUC Berkeleyにて研究留学。

### ②企業訪問

#### a. PS（生産統括部）の紹介

PSはプロダクトサプライの略で、戦略的トータルサプライチェーンの構築・運営・最適化を通じて会社の利益を上げるための部署である。サプライチェーンとは原料の調達から消費者に届けるまでの流れのことであり、これを最適化することでコストを抑えたり、欲しいときに欲しい量を消費者に届けたりすることができるようになる。竹之下氏はPSの中でもマニュファクチャリングという部門に所属していて、製品を作り、市場に供給し続けるというメーカーの心臓部を担っている。

#### b. PS体験

SK-IIのフェイスパックを例に、製品を作るためにはどんな工程が必要か、またどのような順番で作業するのが効率的であるかをグループで話し合った。自分たちが考えた工程と実際の工程は異なっていて、一つひとつの作業を想像することの難しさや、現場の状況を知ることの大切さを学んだ。

#### c. P&Gで働いてみて

性別・国籍・ライフステージに関わらず能力を発揮できる環境であり、また多国籍のチームで働くことの楽しさを感じたという。またチームマネジメントやリーダーシップ研修が充実しており、人材を育てることにフォーカスされているとのことだった。

### ③学生に向けて

#### a. 学生生活とキャリア

東工大在学中は留学生と話すことで英語でのコミュニケーション能力を磨いた。またグ

ローバル理工人の授業でプレゼン力、国際感覚を鍛え、毎年海外経験を積んだ。研究留学を決意したきっかけはアメリカの大学を見学したことだった。留学中はスラングばかりで苦労することもあったが、多様な価値観の中で暮らす楽しさやコンフォートゾーンを飛び出す難しさなどたくさんのことを学び、やらずして後悔するよりやって後悔する人生のほうが良いと考えるようになった。

#### b. メッセージ

どんな夢もその実現に向けて計画を立て、努力を怠らなければ叶う。思うようにいかないことはあるかもしれないが、人生を変えるのは失敗から何を学び、どう行動するかであり、学ぶことがあるのであればそれは「失敗」ではない。またやりたいことはできるうちにすることが大切であり、家族、友人、自分を大切にすべきである。そして最後に、常に今がベストでいられるように自分の成長を止めないことが大切である。過去は変えられないが、未来は変えられるので、自分の成長に自分が責任を持って今後の学生生活を過ごしてほしい。

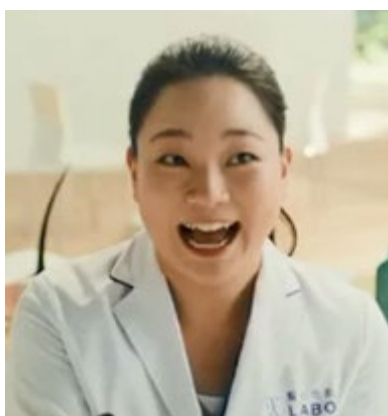


Figure 3.3.2 瀬川緑氏



Figure 3.3.1 竹之下真央子氏

### 3.4 キャリアトーク 3 2/28

#### 1) 平川璃織氏

平川氏は東工大在学中に、超短期留学や、ドイツ・シンガポールでの長期留学を経験し、修士課程卒業後、現在は、ドイツにて博士課程兼研究員をされている。超短期から長期までの留学を通して、海外へのハードルの低下や英語力の底上げができ、最終的に長期留学への自信に繋がったとお話されていた。得に強調されていたことは、英語力に自信がなくてもとりあえず留学に挑戦してみたらなんとかなるということだ。平川氏自身は当時英語力に自信がなかったが、ドイツでの派遣交換留学を経験し、長期留学に対する不安感が「なんとかなるさ」程度までには減ったとおっしゃっていたのが印象的だった。また「やらない後悔よりもやる後悔」という言葉も印象的だった。最初は英語力に自信がなくても、東工大で挑戦できる超短期留学や派遣交換留学を上手く活用して、英語力も精神力もレベルアップさせ

ていき、最終的に海外での Ph.D 取得に挑戦されている点が、東工大生のロールモデルとしてとても参考になると感じた。

## 2) 小泉瑠奈氏

小泉氏は、東工大で超短期派遣や派遣交換留学を経験後、アメリカで Ph.D を取得し、現在はアメリカで“AR/VR Optical Expert”として働かれている。学部生時代のアメリカでの超短期派遣で海外就職に興味を持たれ、修士課程でのジョージア工科大学での派遣交換留学では、ラボの学生がほとんど Ph.D 学生だったため、海外での Ph.D 取得を視野にいれ始めた。またこの派遣交換留学中のコネクションで、日本でインターンをおこない、ph.D を持っている人が多いことに気づき、最終的に、アメリカでの博士課程に挑戦された。お話の中で印象的に残っていることは、コネクションが大事ということだ。新しいことに参加できるきっかけというのは人との縁であり、自分から積極的にいろいろな経験を積み、いろいろな人とコミュニケーションをとっていくことが大事というのを繰り返しお話しされていた。また日本ではまだまだ修士課程卒業後は就職というのが主流になっているが、博士課程をとると可能性が広がり、世界のどこでも自分のやりたいことに挑戦できるパスポートになるというのもとても印象的だった。

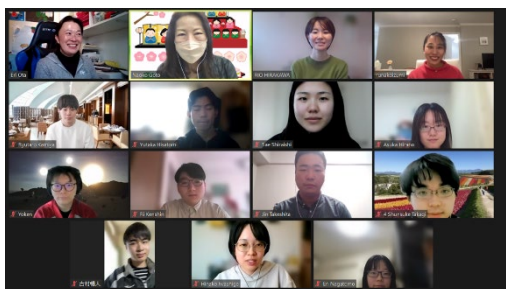


Figure 3.4.1 平川氏、小泉氏との集合写真

## 3.5 留学トーク: 3/7

留学トークが2月27日に行われ、ここでは、二人の方に、留学をテーマにお話をいただいた。

一人目は、古橋知樹さん。東工大の修士を卒業し、現在は南洋理工大学の理学院数物理学科の博士課程に在籍している。古橋さんが、留学を始めた理由の一つは人生の中でやりたいことがまだあるということだ。いろいろな人とつながることができ、新しいものを見ることができ、冒険ができる。そのお話の後、私たちに今、やりたいことがあるかを問いかけた。人生100年時代が謳われる現在、自らのやりたいことを見つけてプランを立てることは大切だ。古橋さんのお話は、私たちがこの先を考えていくモチベーションを高めてくれた。

もう一人は、目見田晶子さんだ。現在、工学院機械系の学士4年で東工大の MIT Student Exchange Program を利用し、MIT に留学した。これが初めての海外渡航なのだそう。目



見田さんからは、MIT へ留学したことの利点や、MIT ならではの文化など興味深いお話を聞くことができました。さらに、今後の人生プランについてもお話していただきました。

また、二人とも留学前の準備についてを語った。例えば、奨学金や英語試験、各種申請についてだ。こうしたお話は、留学を志している私たちにどのような用意が必要かを考えさせてくれた。

さらには、海外大学は日本の大学よりも勉強面で厳しいということも知った。南洋理工大学の博士課程では、一単位でも落とすことはできず、GPA は 3.5 以上とる必要がある。さらに、入学から 1.5 年以内に行う中間審査で研究成果を文章で提出する必要があり、落ちたら退学になる。その上、TA 業務もあるので非常に大変なものになる。MIT の場合は、大量の課題が出され、一人では解けないので、オフィスアワーを積極的に利用しているようだ。海外の大学で学ぶというのは生半可な覚悟ではいけないと感じた。

留学トークにより、留学への思いがより明確になり、将来何をしたいかをより詳しく考えるようになった。



Figure 3.5.2 目見田晶子さん(左の人物)



Figure 3.5.1 岩橋知樹さん

### 3.6 アメリカ

#### 1) アメリカの概要

表 1 にアメリカ合衆国に関する基本情報を示す。[1] 図 1 に示すようにアメリカ合衆国は首都ワシントン D.C.のある北アメリカ大陸中央部と北西部のアラスカ州、中部太平洋のハワイ州から構成されている。また、多民族国家であり、白人が 57.8%、ヒスパニックが 18.8%、黒人が 12.1%、アジア人が 5.9%となっている。[2]国内では主に英語が話されており、宗教の自由も認められている。主要産業は工業、農林業、金融・保険・不動産業、サービス業である、GDP は統計開始の 1990 年から 2021 年まで首位を独走しており、二位の中華人民共和国（約 17 億ドル）と、約 5 億ドル離している。[3]



Figure 3.6.1 アメリカの位置

Table 3.6.1 アメリカの基本情報

面積 [km <sup>2</sup> ]	9, 833, 517 (50 州・日本の約 26 倍)
人口 [万人]	約 3 億 3, 200 (2021 年 7 月米統計局推計)
首都	ワシントン D.C.
民族	多民族
言語	主として英語 (法律上の定めはない)
宗教	信教自由を憲法で保証、主にキリスト教
政体	大統領制
主要産業	工業、農林業、金融・保険・不動産業、サービス業
GDP [億ドル]	22 兆 9, 960 (2021 年)
一人当たりの GDP [ドル]	69, 221 (2021 年)

## 2) ジョージア工科大学の概要

ジョージア工科大学は 1885 年に創設されたアメリカ合衆国の南部にある州立大学である。アトランタの中心地に位置し、50 州だけでなく 149 の国からの様々な人種の学生が約 36, 000 人在籍している [2]。特に工学部が強く、工学部では全米第 4 位に位置付けられている。 [4]

学生の活動についてはジョージア工科大学を卒業した Nathania さん (Figure 3.6.2 右上) が紹介してくださった。多くの学生は学生会や学会、クラブ活動などの学校活動に少なくとも一つ参加する。そのほかにも学生が参加できるイベントはたくさんある。図 3.6.2 の写真は上から、演劇クラブ、音楽鑑賞、チャリティボランティア活動の様子である。



Georgia  
Tech.

Figure 3.6.2 学生活動の紹介写真

大学施設についても3つ選出してくださいました。

一つ目は Campus Recreation Center (CRC) (Figure 3.6.3 右上) である。これはジムに似ており、プールやトラック、コート、ダンススタジオもある。次に、Clough Undergraduate Learning Commons (Figure 3.6.3 左上) である。写真の階段はハリーポッターをモデルにしたらしい。ここでは学生は個室を予約でき、学習スペースとして利用できる。最後に、新しくできたばかりの図書館を紹介してくださいました。(図 3.6.3 下) ここには静かに学習したり、本を読んだりするスペースの他、友達とディスカッションできるスペースもある。東工大の図書館と似ているものがあると感じた。



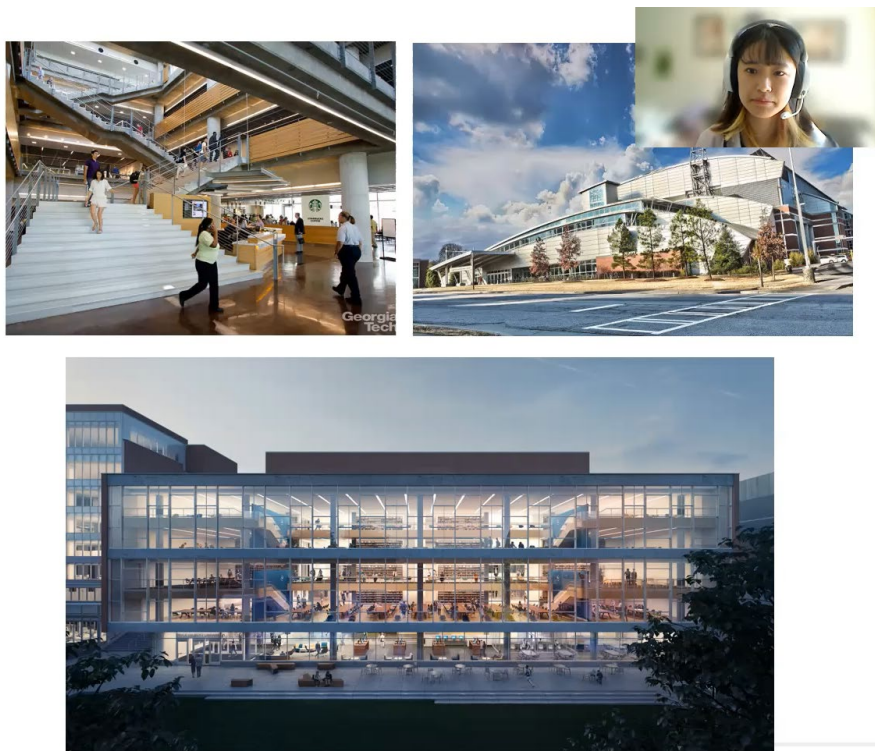


Figure 3.6.3 施設の紹介写真

### 3) ジョイントセッションについて

#### ① 学生交流の概要：留学とキャリアについて

ジョイントセッションは2日間にわたって行われた。2月13日のセッション1には、ジョージア工科大学(Georgia Tech)、スリランカ日本情報科学短期大学(LNBTI)、チュラーロンコーン大学(Chula)、東京工業大学(Tokyo Tech)の4校から合わせて84名の学生が、6人ずつのグループに分かれ、教育やキャリアに関する異文化ディスカッションを行った。最初に、各大学の担当教員が自己紹介をし、プロセスを教えた。その後、学生たちは自己紹介をし、事前に記入した「計画テーブル」を使用して、教育やキャリアに関する経験や将来の計画などを話し合った。また、先生方も自分自身の経験や計画を話した。そして、学生たちはグループ内で留学やキャリアにおける共通点について話し合い、「博士あるいは就職」、「キャリア選択において重要な要素」、「長期間同じ仕事をするかどうか」など、様々なキャリアに関するピックについて議論を展開した。最後に、各グループは留学や就職に興味があ

る国とその理由をまとめ、発表した。

② 異文化理解ワークショップの概要



Figure 3.6.4 ジョイントセッション参加大学

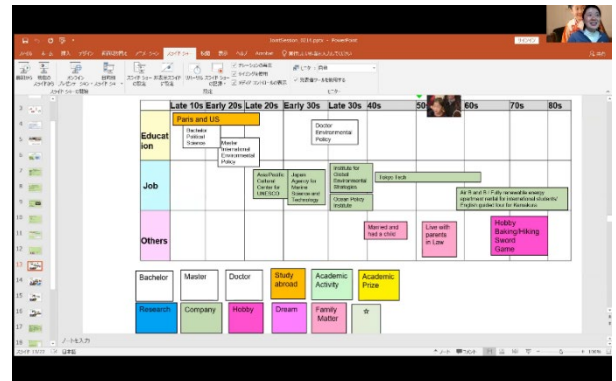


Figure 3.6.5 講義スライド

2月13日のセッション2では、前回と同じ人やグループ分けで行った。まず、書籍『カルチャーマップ(Culture Map)』の評価基準に沿って、学生たちと担当教員は自分の文化特性を8つの尺度で評価した。これにより、コミュニケーションの密度が高いかどうか、ネガティブフィードバックを直接的に行うかどうか、理念先行型か応用先行型か、平等主義か階層主義か、合意型かトップダウン型か、信頼関係を能力あるいは人間関係で決めるか、反対を避けるかどうか、計画を立てるかどうかという8つの尺度により、学生たちは自分自身の文化的背景について理解を深めることができた。これにより、自分自身の文化特性に基づいた評価とは異なる、より独自の文化特性を発見することができ、今後の異文化交流においてより良いコミュニケーションができるようになることが期待される。

学生たちは、自分自身が評価尺度においてどのような経験を持ち、どのような考え方を持っているかを話し合った。また、グループで自分自身やチームメンバーの文化特性をより深く理解するための議論を行った。そして、様々な文化特性のメリットとデメリットについて話し合い、今後の異文化交流において取り組むべき課題を考えた。

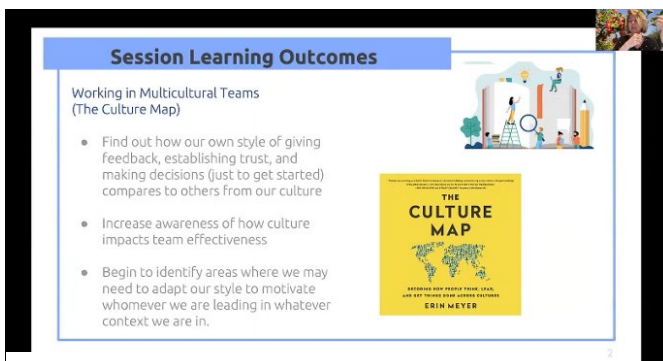


Figure 3.6.4 講義スライド

### 3.7 スリランカ

#### 1) スリランカの概要

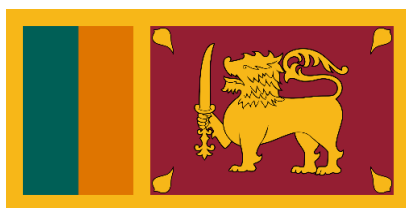


Figure 3.7.1 スリランカの国旗

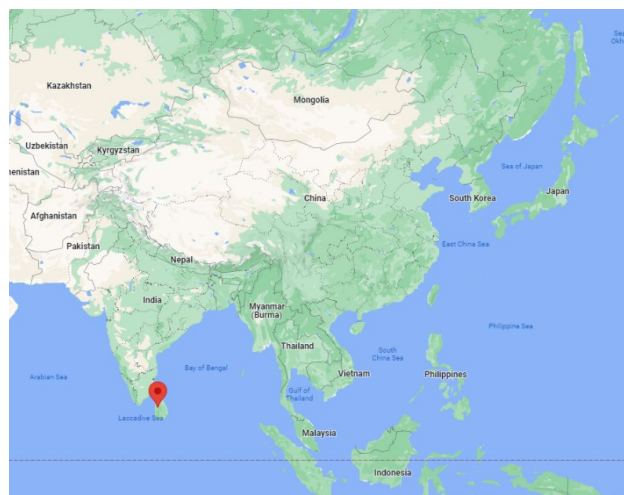


Figure 3.7.2 スリランカの位置

スリランカは、図-2 に示す通り南アジアのインド南方のセイロン島を主な領土とする島国である。65610 km<sup>2</sup>と北海道の約 0.8 倍の広さを持つ国土には、約 2216 万人(2021)の人口を抱える。行政上の首都はスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテだが、1985 年まではコロネボが首都とされ、現在も同国最大の都市かつ経済上の中心地となっている。宗教は仏教が 70.1%と最大の割合を占め、この他ヒンドゥー教(12.6%)、イスラム教(9.7%)、キリスト教(7.6%)と続く。主要な民族としてシンハラ人(74.9%)とタミル人(15.3%)の 2 大勢力が挙げられ、この違いが後述のスリランカ内戦を招いた。言語は両民族の言語であるシンハラ語とタミル語が公用語として指定され、英語はその連結語となっている。政治体制は共和制が敷かれ、一院制の議会や大統領・首相が存在する。名目 GDP は 845 億ドルで、紅茶や米、シナモンなどの農業や繊維業を主要産業としている。

前述の通り多民族国家のスリランカでは、1983 年以降シンハラ人とタミル人の大規模な民族対立が起こる様になり、これが 2009 年まで続くスリランカ内戦へと進展した。しか内戦が終結すると、長い歴史をもつ同国は「人気のある観光地」として、国外から高い評価を受けるようになった。世界遺産も多数存在し、次の図-4 はその一例である。この他図-5 の様なスリランカの農村には独特の風習等も存在し、そこへの訪問や地元住民との交流も観光客からの人気を博している。2022 年には国家の財政破綻が起きたものの、現在国民生活は大幅に改善し今後もスリランカの観光業は発展していくと推測される。[5]



Figure 3.7.3 スリランカのシナモン農業



Figure 3.7.4 スリランカの世界遺産(左：アヌラダプラ 右：シーギリヤ)



Figure 3.7.5 スリランカの農村

2) 学生交流について：2/20（月）2/21（火）





Figure 3.7.6 LNBTI のロゴ

① LNBTI 概要

2月20日のスリランカ人学生との学生交流会では、まずそれぞれの学校の紹介が行われました。LNBTI (Lanka Nippon BizTech Institute) 日本語名「スリランカ日本情報科学短期大学」は日本とスリランカのソフトウェア会社共同出資により、2016年にスリランカの首都コロombo郊外のマハラガマに設置した大学です。ソフトウェアエンジニアリング学科とインフォメーションテクノロジー学科の2学科に集中しています。専門技術とともに日本語や日本の文化に関する教育も行われます。



Figure 3.7.7 イベントの様子

② 学生交流 (2/20) の概要

2月20日の初めは、スリランカ人学生とあまり馴染みがなく、少し恥ずかしかったのですが、お互いをより深く理解するために、まずアイスブレイク、自己紹介をし、お互いの文化の共通点や相違点を交換し合いました。スリランカ人学生の生き生きとした姿がとても印象的です。

③学生交流 (2/21) の概要

2月21日には、昨日に引き続き文化交流を行い、自国の文化の良いところと悪いところを紹介した後、お互いの将来のキャリアプランを共有しました。私たちは、国籍や文化的背景が異なるものの、相互のキャリアプランに共通点を見つけることができました。例えば、私たちのグループでは、全員が結婚を望んでおり、博士課程に進む予定はないとのことでした。

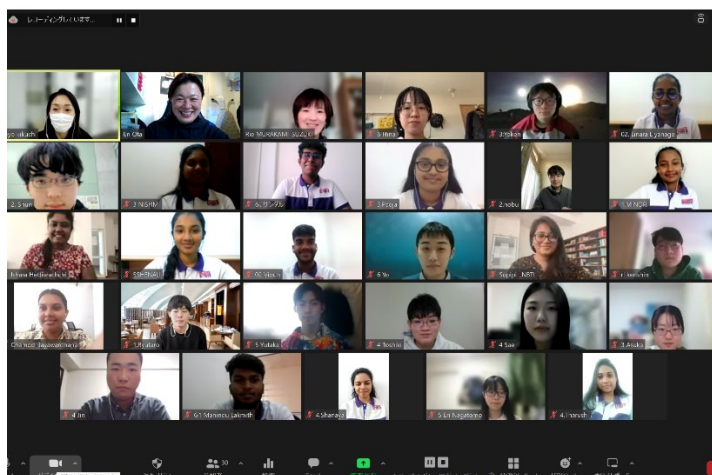


Figure 3.7.8 交流の様子

### 3.8 シンガポール

#### 1) シンガポールの概要

シンガポールの首都はシンガポールである。国土面積がおよそ 720 万平方キロメートル、奄美大島とほぼ等しいほどの大きさのため、都道府県などの行政区分はない。人口はおよそ 570 万人で人口密度は 835 人/平方キロメートルにもなる。

経済は大いに発展を遂げており、人口一人当たりの GDP は 7 万米ドルを超える（購買力を考慮すると世界第 2 位）。金融や貿易、電子部品などの産業に支えられており、自由貿易協定を締結している日本との輸出入の規模はどちらも一兆円を上回る。

政治体制は特徴的で、共和制で大統領がいるが政治の実権は首相が握り、さらに 1965 年建国以来一党独裁が続いている。

華人、マレー人、インド人をはじめとする多様な民族がすんでおり、そのため宗教・文化も多様なものとなっている。公用語はマレー語・タミル語・英語・中国語の 4 つでこれらは平等に扱われているが、英語話者は多い。シンガポール独特の英語（シングリッシュ）が広く話されている。国民性を表すものとして”Kiasu culture”がある。他人になるべく勝っていたいというもので、国土や資源が少ないシンガポールが国際社会の競争に負けないためだという諸説がある。

#### 2) 南洋理工大学

まず、南洋理工大学について述べる。南洋理工大学は、シンガポールにある国立大学の1つで、1991年に設立された。学士課程の学生は24,630人、大学院課程の学生数は9,777人である。(2022年度)男女比率は男性が58%に対し、女性は48%になっている。留学生の割合は25%程度である。

工学系全般をはじめ、メディア、環境学、コンピュータサイエンスなどに特に強みを持っている。イギリスの大学評価機関であるクアクアレリ・シモンズが毎年発表する「QS世界大学ランキング」の2023年版(2022年6月発表)では、世界で19位、アジアの中ではシンガポール国立大・北京大・清華大に続いて4位となっていて、アジアのみならず、世界のトップ大学の1つとなっている。参考までに、同ランキングで東大は世界で23位、東工大は55位である。

シンガポールの郊外部に広大なキャンパスを構えていて、有名なデザイナーが設計した“Learning hub”という建物があり、南洋理工大学を象徴する建物となっている。名前に通り、学習の拠点として、多くの学生に利用されている。



Figure 3.8.1 Learning hubの様子 ©Supanut Arunoprayote (Wikipedia)

次に、学生交流の概要について述べる。2つのセッションに分かれて行われ、最初に行われたのはアイスブレイクである。ここではいくつかのテーマが提示され、そのテーマに興味のある人ごとにブレイクアウトルームに分かれて、自己紹介やそのテーマに関する会話を行った。挙げられたテーマは、Sports、food、culture など8項目である。

次に行われたのは、キャリアパスの紹介である。先程とは違うグループに分かれ、各自の将来の学習やキャリアの計画を発表した。ここでは、他のセッションと同様に、東工大・南

洋理工大双方の学生とも、オンラインホワイトボード「Miro」を用いてテンプレートから表を作り、それを Zoom で画面共有しながら発表するという形をとった。発表後は、発表内容についてお互いに質疑応答をするほか、グループメンバーの留学に行きたい国と、その理由について、サマリーシートにまとめた。南洋理工大と東工大の学生双方が活発に質疑応答やディスカッションを行い、非常に活気あふれる時間となった。[6][7][8][9]

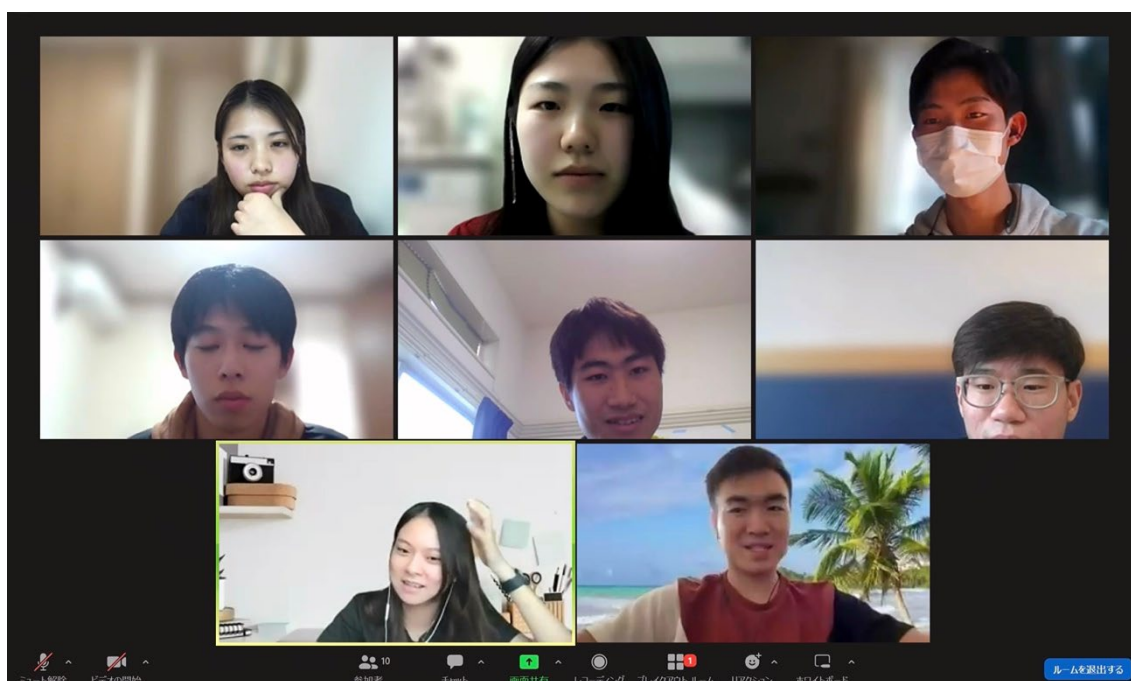


Figure 3.8.2 NTU とのセッションの様子

#### 4 参考資料

- [ 1 ] <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/index.html> (閲覧日 2023/3/13)
- [ 2 ] <https://data.census.gov/table?tid=DECENNIALPL2020.P2> (閲覧日 2023/3/13)
- [ 3 ] <https://www.imf.org/en/Home> (閲覧日 2023/3/13)
- [ 4 ] <https://www.gatech.edu/about> (閲覧日 2023/3/13)
- [ 5 ] 外務省 「スリランカ民主社会主義共和国」  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/srilanka/data.html#section1> (閲覧日 2023/3/9)
- [ 6 ] Nanyang Technological University, “Undergraduate Population” 9 Mar 2023  
<https://www.ntu.edu.sg/about-us/facts-figures/undergraduate-population>
- [ 7 ] Nanyang Technological University, “Graduate Student Population” 9 Mar 2023  
<https://www.ntu.edu.sg/about-us/facts-figures/graduate-student-population>
- [ 8 ] Times Higher Education, “Nanyang Technological University, Singapore” 9 Mar 2023  
<https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/nanyang->



[technological-university-singapore](#)

- [ 9 ] Top Universities, “QS World University Rankings 2023: Top Global Universities” 9  
Mar 2023 <https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2023>